

園、学校、家庭、地域が 連携・協働した P T A 活動

プロフィール

地域

県の北部に位置し、政令市の北九州市に隣接する人口4万6千人の旧産炭地域の市で、石炭産業で栄えた街だが、現在では、大型商業施設あり公共施設も充実している。

学校

中間北中学校は、昭和32年創立一昨年創立50周年を迎えた。生徒数184名、学級数6学級、職員数20名。小高い丘の上に位置し、通学路の春の桜は見事である。

PTA

会員164名、役員会・理事会を中心に4a委員会（家庭教育、保健厚生、広報、地区）で構成。生徒の「生活習慣づくり」に取り組んでいる。

1 はじめに

中間北中学校は、福岡県北部北九州市に隣接する人口四万六千人弱の中間市に、昭和三十二年四月開校した市内で二番目に古い中学校であり、昨年度はめでたく創立五十年を迎えたところである。石炭産業隆盛の頃は二十四学級あった学級数も、少子化のおおりの受け、現在では六学級一八四名の小規模校となっている。

中間北中学校 P T A は会員数一六四人で、会長、副会長、書記、事務局で構成する役員会と、役員会に家庭教育、保険厚生、広報、地区の四委員会の正・副委員長を加えた理事会を、毎月第一木曜日に開催し、P T A 事業の積極的な展開に取り組んでいる。

2 活動のねらい

子どもたちが生活する現代社会は、核家族化、少子化、両親の共働き、テレビやパソコン、携帯電話の普及等の影響を受け、「生活習慣」や「人間関係」等で、深刻な問題を抱えている。

本 P T A では、福岡県 P T A 連合会が推奨する「新家庭教育宣言」に賛同し、「生活習慣づくり」の一環として「早寝・早起き・朝ご飯」運動に三年前から取り組んでいる。

一方、学校では人間関係に悩む生徒が増え、様々な問題が起こりつつあることから、校区の保育園・小学校が連携

した校区連携事業として「ほくほく夢ネット事業」が、四年前から展開されるようになった。

「生活習慣づくり」「人間関係づくり」のいずれもPTAや学校が独自に取り組むより、PTAと学校が連携することとで、より効果的な成果があると考え、「ほくほく夢ネット」に保護者（PTA）が加わることで、園・学校・家庭（・地域）が連携・協働した子育ての取組を展開するようになった。

3 活動の概要

(1) 子どもの生活集団づくり

「生活習慣づくり」は「活動のねらい」の項に挙げたように、福岡県PTA連合会が推奨する新家庭教育宣言事業に、賛同した取組である。

これは学校と連携した取組で、各学期に一週間通して行う「早起き週間」の実践である。早起きすることの目的や目標を、親子で話し合い、子どもの目標達成に向け、保護者として協力したことなどを振り返ることを通して、親子のコミュニケーションの機会を増やししながら、子どもの生活習慣を見直す取組である。

学校からのお知らせ文書に併せ、PTAでもPTA新聞を通してPTA会員の啓発を行っている。

(2) ほくほく夢ネット学習会

「ほくほく夢ネット学習会」は、三年前から行っている「子育て学習会（講演会）」で、助産師、臨床心理士（ス

クールカウンセラー）、県警少年サポートセンター職員等を講師に招き、保護者（PTA）、地域住民、保育園の保育士、小・中学校の教師を対象として行われており、PTAでもお誘いのプリントや広報委員会発行の「PTA新聞」等で、PTA会員の積極的な参加を促している。

(3) 北校区親子ふれあいまつり

「北校区親子ふれあいまつり」は、本来中間北小学校PTAが主催している事業であるが、昨年度から中間北中学校PTAも事業を盛り上げることを目的に、焼きそば販売のテナントで応援しているものである。

本年度は、北中学校PTA役員OBや地域住民で構成される「ほくほくサポーター隊」と、本PTAが連携してテナント（焼きそば販売）の実施が実現した。更に、吹奏楽部保護者会、バスケット部保護者会も実用品バザーや菓子販売等のテナントを実施するなど、連携の輪が広まりつつある。



親子ふれあいまつり

(4) 夢ネット通信の発行

「夢ネット通信」は、ほくほく夢ネット推進委員会が「ほくほく夢ネット」の取組を、保護者（PTA）や地域住民に理解を深めてもらうために発行している通信であるが、ほくほく夢ネット保護者部会でも子どもを見つめる保護者の立場からの声を提供することを通して、夢ネット通信の内容充実に努めている。

(5) 地域やほくほくサポート隊と連携した取組

① 三年生激励餅つき

「三年生激励餅つき」は、高校入試に向けて受験勉強に励む三年生に対し、二年生全員で紅白餅をつき「先輩がんばって」のメッセージを添えてプレゼントするPTA主催の学校行事であり、特色ある学校行事と評価を受けている。

PTAは、ほくほくサポート隊（PTA役員OB）の協力を得ながら、事前の準備・餅つき当日の



3年生激励の餅つき

お世話・事後の後片付けまでを献身的に行っている。

② 献血事業

PTA主催の献血事業も特色ある取組で、長年にわたり継続されている事業である。

献血事業のスタートは昭和四十九年で、当時の女子生徒が手術を要する病気にかかって輸血が必要となり、当時のPTAで献血事業を始めたものである。

この献血事業も今年で三六回目を迎えたが、地域住民の理解と協力のおかげで、毎年一〇〇名近い協力者から献血の提供を受けている。



PTAの献血事業

4 成果と課題

校区連携事業「ほくほく夢ネット」の活動を通して、保育園や小学校の保護者やPTAとともに、子育てについて考えることができるようになり、中学生時期の問題行動や実態が中学校時期の限られたものではなく、保育園期や小学校期からの人間関係や生活習慣が大きく起因していることが理解でき、子どもたちの姿を改めて見直す契機となった。

「早起き週間」の取組を通して、保護者が子どもの生活実態を見直すとともに、望ましい生活習慣づくりには保護者が積極的に関わりながらともに取り組むことが必要であり、「早起き週間」期間に限らず、年間を通して「早寝・早起き・朝ご飯」に取り組もうとする家庭が増えてきた。

課題としてあげられることとしては、「ほくほく夢ネット」が学校主体の連携事業であることから、PTAとしては保育園の保護者や小学校のPTAと連携を更に深めることで取組の充実に繋がるものと考えられる。

地域との連携拡大については、現在のPTA会員が子どもたちの卒業後に「ほくほくサポート隊」に参入し、ネットワークを更に広げることが望まれる。

5 おわりに

時代の変化とともに、近年は携帯電話やインターネットに関連した問題が急増している。また大型商業施設等に於

いては、子どもたちの問題行動も後を絶たない状況である。

子どもたちの問題行動の発生防止や携帯電話、インターネットによる問題を防止するためには、問題行動やネット被害の予防対策を学校任せにすることなく、PTAが地域と連携協働することが強く求められていると考える。

子どもたちにも自分が地域の一員であることを強く自覚し、地域の行事にも積極的に関わる中で、たくさんの地域の方々と接接することを通して、暖かく豊かな心を持ち、地域を心から愛する大人になってもらいたいと願っておられ、PTAも学校・地域と一体となった子育てを展開していきたい。

展 望

子どもたちの生活習慣作りを保育園、小・中学校や地域住民の参加のもと、地域をあげて取り組んでいる事例である。子育て学習会、親子ふれあい祭り、餅つき、献血事業などの活動を通じ、地域住民の理解が広がり、地域の教育力の向上に成果を挙げている。今後は子どもたちの情操を養う参画型プログラムを実施するなど、新たな展開を望むものである。